日本糖尿病学会　国際交流委員会
EASD 2025 Associations' Village ブース出展報告書

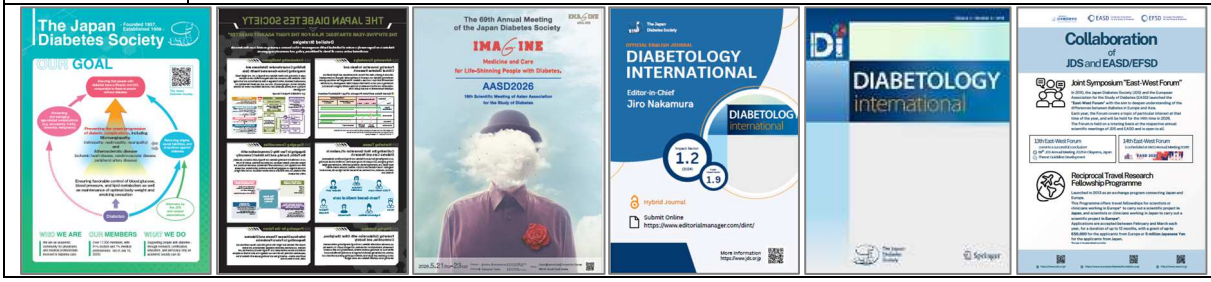
作成日：2025 年 9 月 26 日
出張者：事務局　堀

◆　スケジュール

出展先：The 61st EASD Annual Meeting 2025 in Vienna, Austria
設営日：2025 年 9 月 15 日（月）
公開日：2025 年 9 月 16 日（火）～19 日（金）9:00～18:00　※最終日 14:00 まで
会　場：ブース番号 23, The Community Plaza, Hall B

◆　展示物

掲示物	学会活動紹介ポスター（2 枚組） 第五次「対糖尿病戦略五ヵ年計画」紹介ポスター（2 枚組） 第 69 回年次学術集会ポスター・プロモーションビデオ
配布物	学会活動紹介チラシ 第五次「対糖尿病戦略五ヵ年計画」紹介チラシ 第 69 回年次学術集会チラシ 英文誌 Diabetology International (DI) 紹介チラシ 英文論文別刷り 1 種、DI 見本本 EASD・EFSD との共同事業紹介チラシ 英語問い合わせ用ビジネスカード　（各約 50 部、全て英語版）
ノベルティ	ポケットティッシュ（浮世絵柄）、和紙折り紙



◆　担当者

事務局員 1 名、会員からの公募担当者 2 名

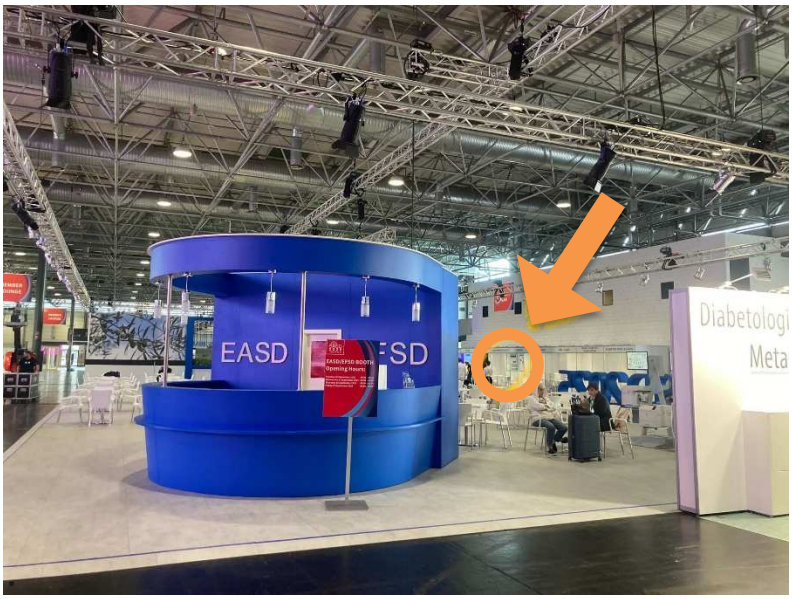
◆　ブース担当者の公募

若手会員の海外学会参加支援策として、理事・監事の推薦にてブース担当要員を募集し、2 名が選出された。JDS から旅費・大会参加費の支援を行い、学会のブース駐在担当をしながら学会に参加した。

- 大森　一乃会員（北海道大学病院　糖尿病・内分泌内科）
- 今泉　俊則会員（京都大学大学院医学研究科　糖尿病・内分泌・栄養内科学）

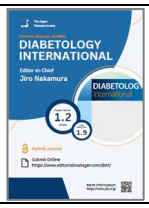
◆　ブース設置エリア

EASD 所属団体のブースはエキシビションホール（企業展示、スポットライトステージなどのエリア）の右手側入り口近く Community Plaza の一画として設置され、計 36 団体のブースが設置された。本学会のブースはテーブルエリアと EASD 会員向けのラウンジの正面に位置し、休憩や作業する一般参加者が多く行きかう位置にあった。





◆　展示・配布物への反応（抜粋）

学会活動紹介	EASD・EFSD との共同事業紹介	英文誌紹介・別刷り	ノベルティ
			
構成を簡略化したことで資料の見通しが良くなり、導入説明用としても要点を端的に示すことができた。	口頭説明に加えて手元資料を用いることで、事業の認知度が向上し、欧州から事業協力に関する問い合わせがあった。	欧州・中東からの論文投稿が増加していることを踏まえ、オープンアクセス出版と無料出版の 2 つのオプションを提示することが有効であった。	新規作成したポケットティッシュ（安価で大量生産可能）は予想以上に来場者の注目を集め、広報活動を活性化させる呼び水となった。

◆　ブース来訪者数（日別）

1 日目：9 月 16 日　約 44 名
2 日目：9 月 17 日　約 31 名
3 日目：9 月 18 日　約 14 名
4 日目：9 月 19 日　約 5 名　　※企業エキシビションが 3 日目で終了のため、12 時に撤収

アジア	イラク、カンボジア、キルギス、インド、バングラデシュ、フィリピン、パキスタン、日本
中東	エジプト、トルコ
アフリカ	アルジェリア、ケニア、ナイジェリア
ヨーロッパ	イタリア、オランダ、チェコ、ドイツ、フランス、ボスニア、ルーマニア、リトアニア、スペイン、スウェーデン、イギリス
北アメリカ・中南米	カナダ、アメリカ、アルゼンチン、チリ
オセアニア	オーストラリア

◆ **来訪者からの主な質問**

【糖尿病患者数・治療・機器関連】

- 日本の糖尿病人口・1 型糖尿病の人数
- 保険適用治療の範囲、1 型・2 型ともに保険適用かどうか
- 糖尿病の予防・日本の食事と糖尿病の関連
- CGM の利用者数・市場規模

【専門医・教育関連】

- 専門医制度とは・専門医の数
- 国外への教育コンテンツ提供の有無、提供の可能性
- 会員向け教育プログラムの種類

【学術集会・EASD との共同事業関連】

- トラベルグラントとその応募方法
- 学術集会に招待演者として参加する方法
- 日本・アジア圏の学術集会に関する情報
- 英語プログラムはあるか
- 医師・医療従事者以外向けのプログラム（患者向け・学生向け）の有無
- 他のアジアの国際学会の開催情報（AASD2026、ICE/JES2026、ATTD2025）
- 次回共同シンポジウム（East West Forum）の開催時期
- EFSD 交換留学へのホストとしての参加方法

【Diabetology International /学会の発表物関連】

- DI への投稿料、非会員の投稿資格、採択率、判定日数
- 最新の MASH の Recommendation はあるか
- 最新のガイドラインはあるか

◆ **今後に向けて**

- 今回も日本人の参加者は少ないように感じた。ブース担当者の若手会員からも、発表が無ければ経済的・時間的理由から渡航は難しい実状があるとされ、本施策の継続の必要性を感じた。

- 若手会員の公募は、理事・監事推薦のみならず会員全体に順次拡大し、大学のみならず市中病院など意欲ある臨床の会員まで応募機会を得ることが期待される。
- 年次学術集会は直近のみではなく 2 年後まで情報があるとよい。
- 人員配置、滞在日程の見直しで引き続き滞在経費の最適化を継続する。

以上